

2014年度 第2四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2014年10月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2014年度第2四半期決算について、
ご説明させていただきます。

2014年度上期 業績 (2014年4月～2014年9月)

(単位:億円)

	2013年度上期	2014年度上期	対前年度
売上高	11,743 100.0%	11,829 100.0%	86 +0.7%
営業利益	574 4.9%	716 6.1%	142 +24.7%
税金等調整前 四半期純利益	625 5.3%	758 6.4%	133 +21.3%
当社株主帰属 四半期純利益	315 2.7%	406 3.4%	91 +28.9%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	65.30円	84.13円	18.83円
為替 :米ドル	99円	103円	4円安
:ユーロ	130円	139円	9円安

*営業利益 増減要因(対前年度) 為替: +47億円、原材料: +7億円

2

2014年度上期は、デジタルカメラの高級機種へのシフトに伴う販売台数減少による売上減や、フラットパネルディスプレイ材料事業の売上が減少したものの、フォトイメージングやメディカルシステム、ドキュメント事業などで売上を伸ばし、連結売上高は前年比86億円増の1兆1,829億円となりました。

営業利益は、各事業における収益性の改善や減価償却方法の変更に伴う影響などにより、前年比24.7%増の716億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、前年比21.3%増の758億円、当社株主帰属四半期純利益は、前年比28.9%増の406億円となりました。

1株当たりの当社株主帰属四半期純利益は、84円13銭となりました。

売上高、利益ともに社内の計画を上回り、順調に進捗しています。

上期 セグメント別: 連結売上高 / 営業利益

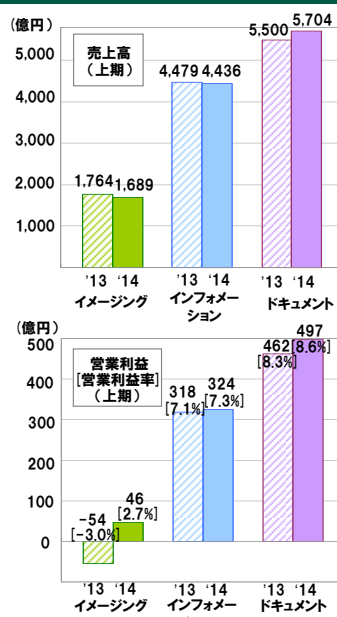
(単位: 億円)

売上高	上期		対前年度
	2013年度	2014年度	
イメージング	1,764	1,689	-75 (-4.2%)
インフォメーション	4,479	4,436	-43 (-1.0%)
ドキュメント	5,500	5,704	204 (+3.7%)
合計	11,743	11,829	86 (+0.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益	上期		対前年度
	2013年度	2014年度	
イメージング	-54	46	100 (黒字化)
インフォメーション	318	324	6 (+1.8%)
ドキュメント	462	497	35 (+7.6%)
全社/連結調整	-152	-151	1
合計	574	716	142 (+24.7%)



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、前年比4.2%減の1,689億円、営業利益は対前年100億円の大幅増となり、46億円の黒字となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、前年比1.0%減の4,436億円、営業利益は前年比1.8%増の324億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、前年比3.7%増の5,704億円、営業利益は前年比7.6%増の497億円となりました。

上期 セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
1,689	-75 (-4.2%)	46	100 (黒字化)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラの販売が引き続き好調であったことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大で、売上が増加。
- ・ 電子映像では、コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により売上が減少。「FUJIFILM X-T1」をはじめとするXシリーズの販売は好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売減により売上が減少したが、テレビカメラ用レンズなどの販売は堅調に推移。

**デジタルカメラ等の売上減少により減収となったものの
インスタントカメラの販売の好調と
デジタルカメラの損益改善により黒字化**

4

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラの販売が引き続き好調であったことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大で、売上が増加しました。

電子映像では、コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により売上が減少しましたが、プレミアムミラーレスカメラ「FUJIFILM X-T1」などXシリーズの販売は好調に推移しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売は減少しましたが、テレビカメラ用レンズなどの販売は堅調に推移しました。

この結果、光学・電子映像事業合計で売上は減収となりました。

イメージング ソリューション部門は、デジタルカメラ等の売上減少により減収となったものの、フォトイメージング事業でのインスタントカメラの好調な販売や原価低減、デジタルカメラの損益改善により黒字化しました。

上期 セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
4,436	-43 (-1.0%)	324	6 (+1.8%)

- ・ メディカルシステムでは、医療ITや超音波診断装置等の販売が好調に推移し、売上が増加。医薬品は富山化学の「ゾシン」の販売が堅調に推移したものの、国内で抗菌薬市場全体の低調が続き、売上は減少。
- ・ グラフィックシステムでは、国内で消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの後半に回復し、売上が増加。
- ・ フラットパネルディスプレイ材料では、液晶テレビの大画面化等の影響でプレーンタック、VA用フィルムの販売は堅調。需要旺盛だった前年同期比では売上減少。
- ・ 記録メディアはコンピューター用磁気テープの好調により売上が増加。
- ・ 産業機材では新規事業の一部販売遅れなどによって売上が減少したが、既存事業での販売は堅調に推移。電子材料は先端フォトレジスト等幅広い製品が好調で売上が増加。

**フラットパネルディスプレイ材料の売上減少等により
減収となったものの、各事業の収益性改善等により増益**

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、前半に国内での消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの、成長領域である医療ITや超音波診断装置などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。また、内視鏡では新製品の販売が堅調に推移しています。

医薬品は、富山化学の「ゾシン」の販売は堅調に推移したものの、国内で抗菌薬市場全体の低調が続き、売上は減少しました。

研究開発においては、アルツハイマー型認知症治療薬「T-817MA」や抗がん剤「FF-10501」で外部のパートナーとの共同で臨床試験を開始するなど、着実にパイプラインの開発を推進しています。

また、バイオ医薬品事業拡大のために、米国の受託製造会社Kalon社を買収し、成長するワクチン受託製造市場へ参入することを決定しました。

さらに本日、富士フイルムが保有するジャパン・ティッシュ・エンジニアリング社の新株予約権の全てを年内に行使して、連結子会社化することを決定しました。これにより、再生医療製品の開発の加速、事業領域の拡大を進めていきます。

グラフィックシステムでは、国内では前半に消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの後半に回復し、売上が増加しました。

また、デジタルプリンティングの市場も動き出し始めました。

フラットパネルディスプレイ材料は、液晶テレビの大画面化等の影響でプレーンタック、VA用フィルムの販売が堅調に推移しましたが、前年同期の中国での液晶テレビ需要が特に旺盛だったこともあり、売上は前年同期比で減少となりました。

記録メディアは、「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」などの独自技術による高容量のコンピューター用磁気テープの販売が堅調に推移し、売上が増加しました。

データアーカイブ分野における一層の売上拡大を目指していきます。

産業機材では、既存事業での販売は堅調でしたが、新規事業の一部販売遅れなどにより、売上が減少。電子材料では先端フォトレジスト等幅広い製品が各地域で好調だったことにより、売上が増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、

フラットパネルディスプレイ材料事業の売上が減少したことなどにより減収となりましたが、各事業の収益性改善や減価償却方法の変更に伴う影響などにより、増益となりました。

上期 セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
5,704	204 (+3.7%)	497	35 (+7.6%)

- ・オフィスプロダクトは、国内では前年度後半の需要増の反動や前年同期の大型案件の影響等により減少したものの、アジア・オセアニア地域ではカラー機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加。
- ・オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でモノクロ機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加。
- ・プロダクションサービスでは、販売台数が国内、アジア・オセアニア地域で減少したものの、米国ゼロックス社向け輸出では増加。
- ・グローバルサービスは、国内でMPSビジネスが好調に推移して増収。当年度より連結対象となった富士ゼロックスサービスリンク株式会社の売上も寄与。

**全ての地域での売上の増加に加え、
グローバルサービスの成長と
原価改善やSGA比率低減施策が寄与し、増収増益**

6

続いて、ドキュメント ソリューション部門です。

オフィスプロダクトは、国内では前年度後半の需要増の反動や前年同期の大型案件の影響等により減少したものの、

アジア・オセアニア地域でのカラー機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加しました。

中でも、アジア・オセアニア地域向けに5月より販売を開始したA3カラーローエンドモデルDocuCentre SC2020の販売が好調で、台数が大きく伸びました。

オフィスプリンターは、国内、米国ゼロックス社向け輸出で販売台数が減少したものの、アジア・オセアニア地域でモノクロ機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加しました。

プロダクションサービスは、販売台数が国内、アジア・オセアニア地域で減少したものの、米国ゼロックス社向け輸出では増加しました。

グローバルサービスは、国内でMPSビジネスが好調に推移したことに加え、当年度より連結対象となった富士ゼロックスサービスリンク株式会社の売上が寄与したことにより、増収となりました。

ドキュメントソリューション部門は、国内、アジア・オセアニア地域、米国ゼロックス社向け輸出の全ての地域での売上の増加に加え、グローバルサービスの成長と継続した原価改善やSGA比率の低減に向けた施策が寄与し、増収増益となりました。

連結貸借対照表

(単位:億円)									
	12年度末	13年度末	14年9月末	対13年度末		12年度末	13年度末	14年9月末	対13年度末
現金及び現金同等物	4,454	6,046	6,639	593	長短社債及び借入金	3,583	3,597	3,758	161
受取債権	5,889	6,368	6,103	-265	支払債務	2,510	2,659	2,509	-150
棚卸資産	3,999	3,637	3,768	131	その他流動固定負債	4,255	4,032	4,091	59
有価証券 その他流動資産	1,271	1,566	1,828	262	負債計	10,348	10,288	10,358	70
流動資産計	15,613	17,617	18,338	721	株主資本計	18,689	20,206	20,967	761
有形固定資産	5,461	5,303	5,290	-13	非支配持分	1,559	1,776	1,863	87
営業権	4,122	4,231	4,300	69	純資産計	20,248	21,982	22,830	848
投資有価証券 その他資産	5,400	5,119	5,260	141	負債・純資産 合計	30,596	32,270	33,188	918
固定資産計	14,983	14,653	14,850	197	(単位:円)				
資産合計	30,596	32,270	33,188	918	期末日 為替レート	12年度末	13年度末	14年9月末	対13年度末
					米ドル	94	103	109	6円安
					ユーロ	121	142	139	3円高

次に、バランスシートについてご説明します。

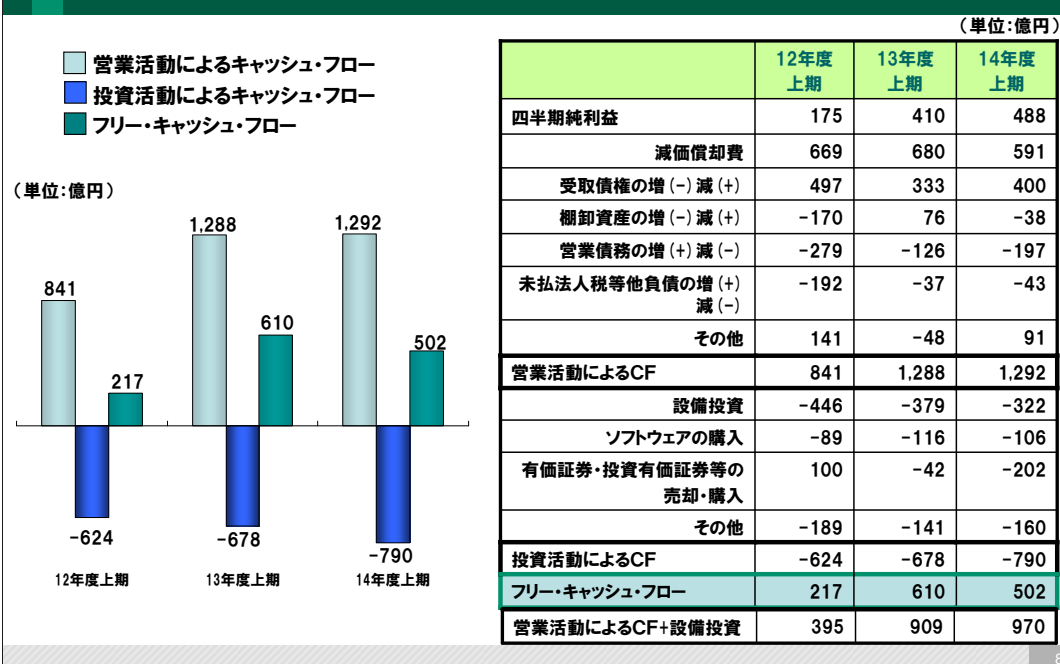
2014年9月末時点の資産は、現金及び現金同等物の増加や為替の円安影響などにより、2014年3月末時点と比べ、918億円増の3兆3,188億円となりました。

負債は、社債および短期借入金が増加したことなどにより、70億円増の1兆358億円となりました。

株主資本は、761億円増加し2兆967億円となりました。

流動比率は、前期末に比べ9.5ポイント増の304.9%、負債比率は1.5ポイント減の49.4%、株主資本比率は0.6ポイント増の63.2%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー



続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益の増加に加え、受取債権の減少などにより、1,292億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入などにより、790億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、502億円のプラスとなりました。

以上で、2014年度第2四半期決算の説明とさせていただきます。

2014年度 連結業績予想 (2014年10月30日時点)

	2013年度	2014年度(予想)	対前年度	(単位:億円)
売上高	24,400 100.0%	24,600 100.0%	200 +0.8%	
営業利益	1,408 5.8%	1,600 6.5%	192 +13.6%	
税金等調整前 当期純利益	1,572 6.4%	1,600 6.5%	28 +1.8%	
当社株主帰属 当期純利益	810 3.3%	850 3.5%	40 +4.9%	
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	168.07円	176.36円	8.29円	
為替 :米ドル :ユーロ	100円 134円	100円 135円	— 1円安	

*2014年度 営業利益 為替感応度 米ドル:10億円、ユーロ8億円

■2014年度配当金 中間:25円を実施 年間:50円を予定

9

続きまして、2014年度の連結業績予想ですが、
2014年4月30日に発表済みの予想からは変更しておりません。

この通期業績予想達成に向け順調に進捗しており、
第3四半期以降も引き続き成長戦略を推進していきます。

最後に配当金についてですが、当年度の中間配当金は、1株当たり25円といたしました。

当年度の年間配当金につきましては、記念配当金10円を含んだ前期配当金と同額の50円を予定しております。

80th
Anniversary

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2014年度第2四半期決算及び2014年度の通期業績予想についてご説明いたしました。
ご静聴いただき、ありがとうございました。

2014年度第2四半期 決算説明会

参考資料

2Q/上期 業績

	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
売上高	6,056 100.0%	6,245 100.0%	189 +3.1%	11,743 100.0%	11,829 100.0%	86 +0.7%
営業利益	323 5.3%	418 6.7%	95 +29.4%	574 4.9%	716 6.1%	142 +24.7%
税金等調整前 四半期純利益	322 5.3%	459 7.4%	137 +42.6%	625 5.3%	758 6.4%	133 +21.3%
当社株主帰属 四半期純利益	165 2.7%	252 4.0%	87 +52.5%	315 2.7%	406 3.4%	91 +28.9%
為替 :米ドル	99円	104円	5円安	99円	103円	4円安
:ユーロ	131円	138円	7円安	130円	139円	9円安

*営業利益 増減要因(上期 対前年度) 為替: +47億円、原材料: +7億円

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	904	899	-5 (-0.5%)	1,764	1,689	-75 (-4.2%)
インフォメーション	2,305	2,387	82 (+3.6%)	4,479	4,436	-43 (-1.0%)
ドキュメント	2,847	2,959	112 (+3.9%)	5,500	5,704	204 (+3.7%)
合計	6,056	6,245	189 (+3.1%)	11,743	11,829	86 (+0.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	-45 [-4.9%]	14 [1.5%]	59 (黒字化)	-54 [-3.0%]	46 [2.7%]	100 (黒字化)
インフォメーション	203 [8.8%]	197 [8.2%]	-6 (-3.1%)	318 [7.1%]	324 [7.3%]	6 (+1.8%)
ドキュメント	245 [8.5%]	280 [9.4%]	35 (+14.5%)	462 [8.3%]	497 [8.6%]	35 (+7.6%)
全社/連結調整	-80	-73	7	-152	-151	1
合計	323	418	95 (+29.4%)	574	716	142 (+24.7%)

13

<当スライドは配付資料です>

2Q（3ヶ月）セグメント別 ハイライト

■ イメージング ソリューション

- インスタントカメラの販売が1Qに引き続き好調で、フォトイメージングの売上が増加。
- コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により販売台数は前年同期比で大幅に減少したものの、高級機種種の拡販により収益性は大幅に改善。
- 光学デバイスはスマートフォン用カメラモジュールの販売が減少。

■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステムでは1Qの消費税増税による駆け込み需要反動影響を挽回し売上が好調に推移。医薬品は抗菌薬市場が引き続き低調だったが、富山化学の「ソシン」の販売は堅調。
- フラットパネルディスプレイ材料は、液晶テレビ向けにブレンタック、VA用フィルムの販売が堅調。
- グラフィックシステムはCTPプレートの販売が堅調に推移し、消費税増税による駆け込み需要反動影響を受けた1Qから回復。

■ ドキュメント ソリューション

- 国内、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の全ての地域において売上が増加。
- 売上の増加による売上総利益の増加に加え、経費効率化等が寄与したことにより増益。

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
フォトイメージング	518	600	82 (+15.9%)	1,003	1,089	86 (+8.6%)
電子映像	199	165	-34 (-17.1%)	405	339	-66 (-16.3%)
光学デバイス	187	134	-53 (-28.2%)	356	261	-95 (-26.7%)
光学・電子映像	386	299	-87 (-22.5%)	761	600	-161 (-21.1%)
合計	904	899	-5 (-0.5%)	1,764	1,689	-75 (-4.2%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

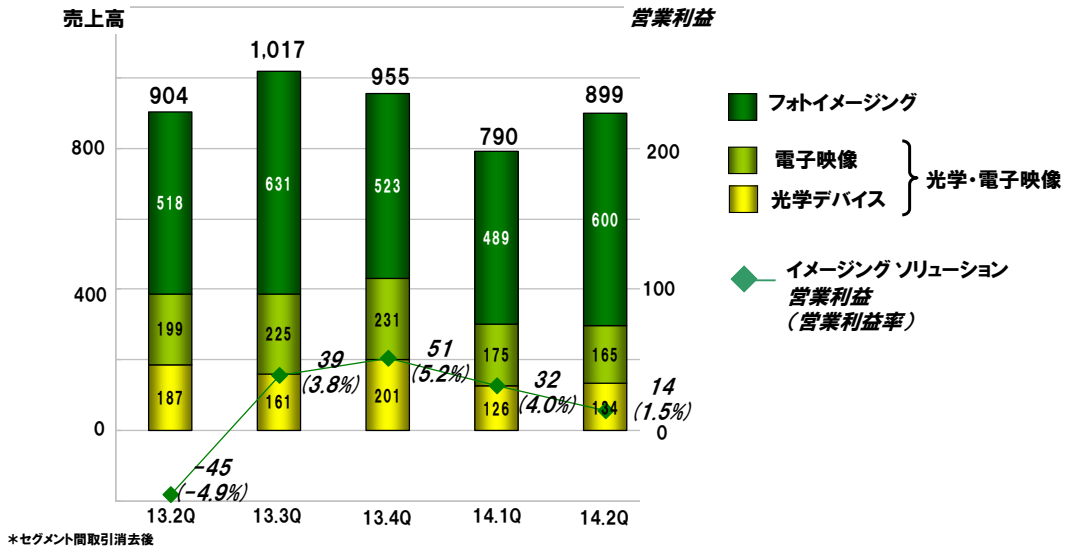
営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	-45 [-4.9%]	14 [1.5%]	59 (黒字化)	-54 [-3.0%]	46 [2.7%]	100 (黒字化)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
ヘルスケア	922	966	44 (+4.8%)	1,719	1,734	15 (+0.9%)
グラフィックシステム	696	718	22 (+3.2%)	1,356	1,370	14 (+1.1%)
フラットパネル ディスプレイ材料	352	343	-9 (-2.4%)	752	647	-105 (-14.0%)
記録メディア	110	119	9 (+7.8%)	219	224	5 (+2.0%)
産業機材/電子材料他	225	241	16 (+7.2%)	433	461	28 (+6.5%)
合計	2,305	2,387	82 (+3.6%)	4,479	4,436	-43 (-1.0%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
インフォメーション	203 [8.8%]	197 [8.2%]	-6 (-3.1%)	318 [7.1%]	324 [7.3%]	6 (+1.8%)

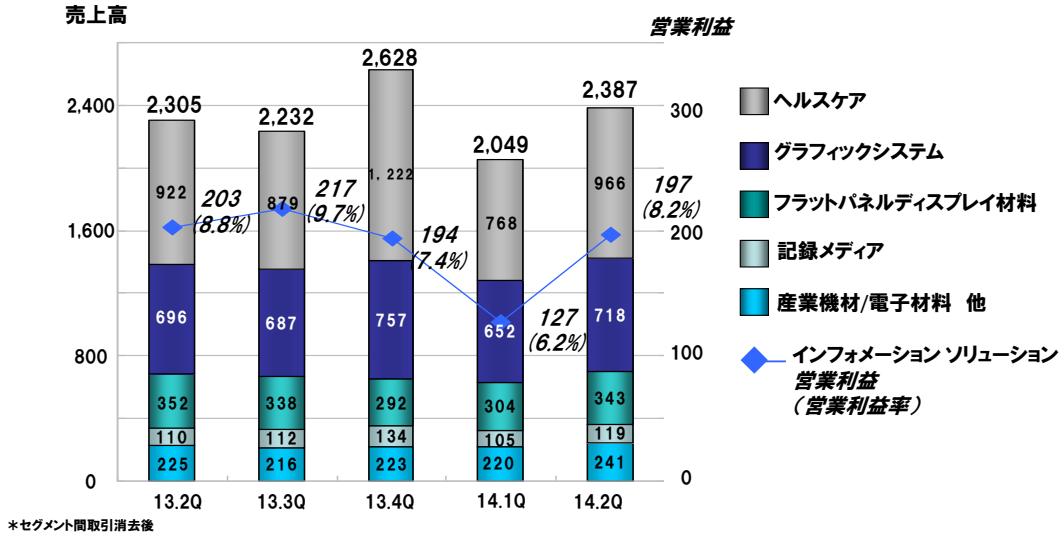
17

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,300	1,324	24 (+1.8%)	2,577	2,589	12 (+0.5%)
オフィスプリンター	454	463	9 (+2.2%)	876	900	24 (+2.8%)
プロダクションサービス	393	400	7 (+1.7%)	752	743	-9 (-1.2%)
グローバルサービス	396	468	72 (+18.0%)	735	867	132 (+17.9%)
その他	304	304	0 (-0%)	560	605	45 (+8.0%)
合計	2,847	2,959	112 (+3.9%)	5,500	5,704	204 (+3.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
ドキュメント	245 [8.5%]	280 [9.4%]	35 (+14.5%)	462 [8.3%]	497 [8.6%]	35 (+7.6%)

19

<当スライドは配付資料です>

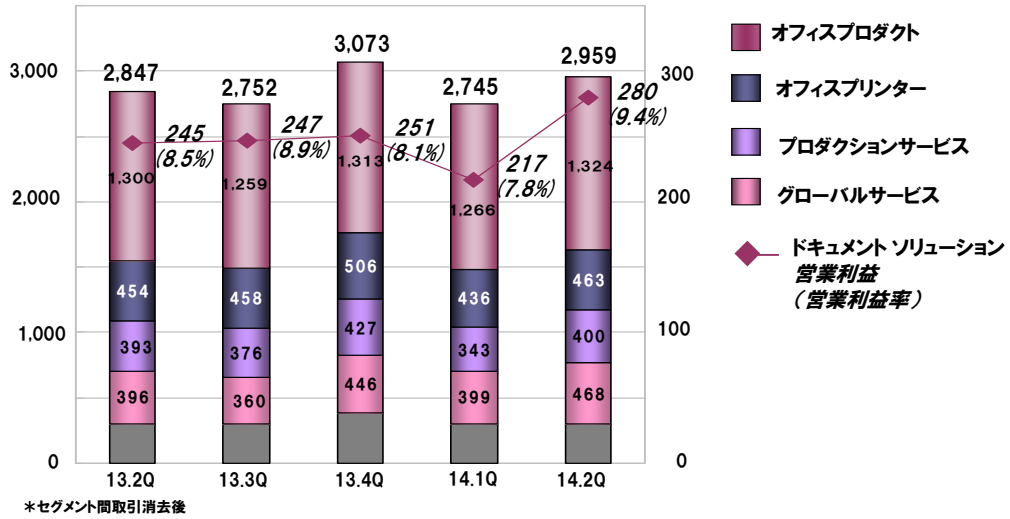
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2013年度 上期		2014年度 上期		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	41.7%	4,895	41.2%	4,879	-16 (-0.3%)
米州	18.0%	2,118	18.6%	2,201	83 (+3.9%)
欧州	11.9%	1,400	11.8%	1,391	-9 (-0.7%)
内、中国	10.9%	1,284	10.8%	1,275	-9 (-0.7%)
アジア他	28.4%	3,330	28.4%	3,358	28 (+0.8%)
海外	58.3%	6,848	58.8%	6,950	102 (+1.5%)
合計	100.0%	11,743	100.0%	11,829	86 (+0.7%)

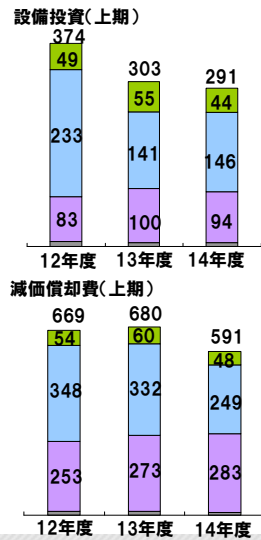
21

<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



年度	2Q			上期			通期		
	2012	2013	2014	2012	2013	2014	2012	2013	2014 (予想)
イメージング	28	23	29	49	55	44	99	93	-
インフォメーション	119	74	80	233	141	146	399	324	-
ドキュメント	59	67	55	83	100	94	248	239	-
コーポレート	6	4	4	9	7	7	21	14	-
設備投資 ※	212	168	168	374	303	291	767	670	750
イメージング	26	29	24	54	60	48	133	135	-
インフォメーション	175	167	127	348	332	249	718	686	-
ドキュメント	126	143	144	253	273	283	531	561	-
コーポレート	6	7	5	14	15	11	33	32	-
減価償却費	333	346	300	669	680	591	1,415	1,414	1,200
有形固定資産の減価償却費 ※	221	220	166	430	426	323	934	907	700

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

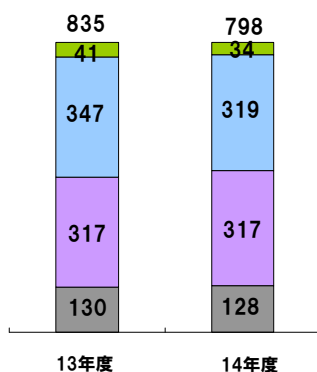
<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(上期)



年度	2Q		上期		通期	
	2013	2014	2013	2014	2013	2014 (予想)
イメージング	12	17	41	34	61	-
インフォメーション	164	165	347	319	675	-
ドキュメント	161	166	317	317	634	-
コーポレート	68	64	130	128	274	-
研究開発費	405	412	835	798	1,644	1,650
<売上高比>	6.7%	6.6%	7.1%	6.7%	6.7%	6.7%
販売費及び一般管理費	1,535	1,548	3,059	3,046	6,159	-
<売上高比>	25.4%	24.8%	26.1%	25.7%	25.2%	-

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位:円)

	2013年度						2014年度			
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	通期 (予想)
米ドル	99	99	99	101	103	100	102	104	103	100
ユーロ	129	131	130	137	141	134	140	138	139	135

*2014年度 営業利益 為替感応度 米ドル:10億円、ユーロ8億円

原材料価格

(平均)

(単位:千円/kg)

	2013年度						2014年度			
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	通期 (予想)
銀	78	68	74	68	67	71	65	67	65	80

人員

(単位:人)

	2013.9末	2013.12末	2014.3末	2014.6末	2014.9末
連結	79,837	80,113	78,595	79,192	80,590

<当スライドは配付資料です>

パイプライン

開発番号	薬効	剤形	地域	開発段階	備考	
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	米国	P III 実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中 国内はアビガン錠として承認済み	
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み	
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	P I 終了		
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	P II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Studyと臨床試験実施中	
			日本	P II 実施中	京都大学iPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す	
T-4288	マクロライド系抗菌薬	経口	日本	P II 準備中		
バイオ	ITK-1	抗がん剤(前立腺がん)	注射	日本	P III 実施中	
FF-10501	抗がん剤(血液がん)	経口	日本	P I 実施中		
			米国	P I 実施中		
バイオ	FF-21101	抗がん剤(難治性固形がん)(Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
FF-10502	抗がん剤(難治性固形がん)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中		
F-1311	放射性医薬品(前立腺がん診断用)		日本	P I 実施中		

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、欧州でP I 実施中。

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2014

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2014/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- － 2014年 9月 「医療ICT化における富士フィルムの挑戦」

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

<当スライドは配付資料です>